

専用の休息設備を第1ターミナルに設置

発達障害の特性がある方のパニックを未然に防ぐ

第1ターミナル国内線出発ロビーに、発達障害の特性がある方が休息できるクールダウン・カームダウン専用設備「コージールーム」を設置した。発達障害の特性がある方には感覚過敏の方も多く、外部からの刺激がストレスになってパニックを起こすことがあるため、ルーム内を外からの音や光、視線を遮ることができる居心地の良いプライベートな空間とすることで、パニック状態になることを予防する。NAAではこのような環境を整備することで、発達障害の特性がある方やそのご家族にも積極的に旅行に行っていたらきたいと考えている。

NAAは全ての方々に利用しやすい空港づくりを目指しており、その一環として1月14日には全日本空輸との共催で、「発達障害のある子のための空港&搭乗体験ツアー in 成田空港」を実施した。発達

障害の特性があるお子さまにとって、予め見通しを立てることが大切であることから、空港の利用と航空機への搭乗を事前に体験して、旅行への不安を取り除いてもらうことを目的としたものである。搭乗した航空機をトーイングで地上移動するプログラムも組み込み、発達障害のあるお子さまとご家族、合わせて54人が参加した。

NAAはこのような機会の提供を通じて、成田空港と航空機を利用する際のユニバーサルデザイン化を推進していく。



五大エンボディ社製の「コージールーム」(幅152cm×奥行き75cm×高さ208cm)

自律走行サイネージロボットの有効性を検証

第2ターミナル出発ロビーで実証実験

NAAは、国内で初めて告知情報や広告などを表示できるディスプレイを搭載した自律走行ロボット「Signage HOSPI」(サイネージホスピ)の有効性検証を実施している。このロボットの原型はパナソニックが開発した自律搬送ロボット「HOSPI」で、物を体内に格納し、自動で安全に搬送する機能を備えるなど病院内で薬品等を搬送するロボットとして開発され、国内外で複数の導入実績がある。

「Signage HOSPI」は、物を運ぶ代わりに、胴体の前面と左右側面に26インチの液晶ディスプレイ計3枚を装着し、そこに告知情報などを表示しながら、決められたエリア内を移動する。それぞれのディスプレイに対応した視線評価用カメラを備えているため、表示されている情報へのお客さまの視線量を定量的に測れる。同時に固定式のサイネージでも同じ情報を表示し、視線評価用カメラでお客さまの視線量を測り「Signage HOSPI」との注目度合いを比較することで、サイネージロボットの価値評価手法の確立を目指す。

このロボットは人や物等を認識し、自律的に減速・衝突回避・停止等の判断を行う機能と本体デ

ザインの注目度の高さを活かし、保安検査場周辺における機内持ち込み制限品情報の周知、固定式サイネージの設置が困難な場所での情報発信、広告媒体としての活用の可能性など、さまざまな情報訴求の可能性を検証する。

検証は第2ターミナル3階出発ロビーで、1月15日から2月26日までの間、土・日、祝日を除く毎日、10時～12時、14時～16時に行っている。パナソニックとの共同での検証で、この取り組みは平成29年度ロボット導入実証事業(経済産業省)に採択されている。

